

学生担当者報2

発行 / 天理教学生担当委員会 発行責任者 / 清水慶政 編集責任者 / 中山祥吉

TEL 直通: 0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp

TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp Happist https://happist.net

Vol. 444

立教 187 年
2024 年
1 月 25 日発行

この時期になると学生の頃の出来事を思い出します。3 月の中頃に友人の行動が大きく変わりました。急に朝づとめ参拝に行くようになり、雑談の内容にも色々とお道の話が含まれているのです。聞けば、学修大学の部に参加して考え方が変わった、今までの自分とは違うのを見ていてくれとのこと。人はそんなにも短期間で変化できるのだと感心しましたが、翌月にはいつもの友人に戻り少し安心したものです（笑）。すぐに熱くなればすぐに冷めるのだと。しかしながら翌年の 1 月頃にその友人から大学の部に参加するから一緒に参加しないかと誘われたので

す。今になって思うことは、学修参加後の一時的な熱は冷めたとしても、心の芯に身に付いた物は時間が経っても忘れることなく確実に身に付いていくということです。本年も 3 月 4 日から 8 日にかけて学生生徒修養会大学の部、10 日から 12 日にかけて高校卒業生コースが開催されます。ことわざに「鉄は熱いうちに打て」という言葉があります。これには「鉄は熱して軟らかいうちに鍛えるように、精神が柔軟で、吸収する若いうちに鍛えるべきである」という意味があります。学生たちにとっておちばで同年代との合宿生活を通して教理を学ぶということ、かけがえのないものになります。こちらが意図している

以上の物を持ち帰りますし、学修でできた友人たちはこれから的人生においてさらなる可能性を広げてくれるのだと思います。先のことわざは、「物事は関係者の熱意がある間に事を運ばないと後では問題にされなくなる」という例えにも使われます。育成者にとっては学生に声を掛けるタイミングの重要性を物語っているようにも思います。学修の直後こそ学生の熱意があふれている時なので、そこでの働きかけこそ今後の大きな一手につながるのではないのでしょうか。結局一度も参加することの無かった学修ですが、今年も大勢の学生がおちばに帰ってくるのを楽しみに精一杯準備にあたらせていただきます。

「鉄は熱いうちに打て」



この時期になると学生の頃の出来事を思い出します。

学生生徒修養会部 委員

佐村 陽一

令和 6 年 学生担当委員会 活動方針

「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」

学生担当者報

地区	日程・会場案内	学生層育成者講習会
・滋賀	2 月 2 日 14 時～	教務支庁
・大分	2 月 2 日 18 時～	教務支庁
・山口	2 月 3 日 13 時～	教務支庁
・東京	2 月 4 日 10 時～	教務支庁
・京都	2 月 11 日 11 時～	教務支庁
直属		
・阪東	2 月 3 日 12 時 30 分～	大教会
・網走	2 月 12 日 11 時 30 分～	大教会
・網干	2 月 18 日 12 時～	大教会
・松阪	2 月 20 日 12 時～	大教会
・嶽東	2 月 20 日 12 時～	大教会

お知らせ

二月例会
期日…立教 187 年 2 月 25 日
時間…15 時 30 分受付 16 時開始
会場…教庁 4 階講堂

報告

・笠岡 2 月 21 日 11 時 45 分～ 大教会
・双名島 2 月 22 日 10 時 30 分～ 大教会
・生野 2 月 23 日 11 時 30 分～ 大教会

十二月例会

去る 12 月 25 日、教庁 4 階講堂において「12 月例会」を開催。出席は 28 教区、94 直属。

人事

《立教 186 年 12 月 25 日付》

【直属学生担当委員長辞令交付】

・津田章吉（山名）

業務記録

《立教 186 年 12 月 16 日～187 年 1 月 15 日》

12 月 23 日 春の学生おちばがえり

決起の集い（～24 日）

25 日 委員会 例会

広報室会議

1 月 4 日 おせち学生ひのきしん隊

（～7 日）

学修部部会

8 日 委員会

高校の部研究室

広報室会議

9 日 大学の部研究室

高校卒業生コース研究室

春の学生おちばがえり

プロジェクトチーム会議

10 日 学修係員チーム会議

13 日 まなびばチーム会議

まなびば天高トライアル

「立教百八十七年 春の学生おぢばがえり」決起の集い 開催報告

天理教学生会では、12月23日、24日の2日間にわたり、第7・8・9母屋を宿舍として「立教百八十七年 春の学生おぢばがえり」決起の集いを開催し、138名（24教区67名、16直属24名、学生スタッフ47名）の学生が参加しました。

参加した学生は、3月28日に開催される「春の学生おぢばがえり」（以下、春学）に向けて、熱心にプログラムに取り組みました。

まず初めに、緊張をほぐすために、全体でのウォーミングアップや班別での交流が行われました。その後、春学についての理解を深めるため、紙芝居を用いてこれまでの歴史を振り返り、次に真柱様よりメッセージを頂

戴することの有難さを再確認しました。

その後は、中臺理生之助実行委員長より、今回の春学開催に対する思いを聞き、それぞれの学生会活動に置き換えて春学について考えました。

2日目には、東右第一棟4階講堂にて、「全体アワー」と称した交流の場を持ち、それぞれの学生会における春学に対しての疑問や悩みを実行委員会や各学生会に問いかけ、より充実した春学となるよう、意見交換をしました。

最後には、2日間のプログラムで感じたことを振り返り、お互いに春学への気持ちを高め、今回の決起の集いは幕を閉じました。

青 空

私は、16期本部スタッフとしてご用をいただいております。本部のご用、特に学担のご用のとりこになっている1人なのですが、なぜとりこになっているのか振り返ってみると、大きな理由として二つ見つけました。一つ目は、信仰者として尊敬する先生方や先輩、お道の話をして共に高め合える仲間との出会いがあり、常に気付き、学びがある場所だということ。二つ目は、本部のご用はおぢばの理を戴けるということです。

一つ目はまさに文字通りなのですが、二つ目のおぢばの理に関しては、ある先生から教えていただきました。「おぢばの理はおたすけにつかえる理。少しでもおぢばの理を戴けるように、研修会などのタイムスケジュールをみて、プログラム以外で何ができるかが大事やで」と起床時間より早く起きてトイレ掃除をされている先生の言葉と姿を見て、見よう見まねでやるようになりました。その後、ご用が終わり帰ってにをいがけに歩くと、数軒しかまわっていないのにやたらとおさづけを取り次がせてもらえたり、いきなり隣人関係の悩みを打ち明けてもらえたりと、不思議なことがよく起こります。まさにおぢばの理を感じる機会を頂いています。このおぢばの理を戴ける事が、私が学担のご用のとりこになっている理由の一つです。

もうすぐ学修があります。少しでもおぢばの理を戴けるようなつとめ方を意識して、またそんな素敵な先輩や仲間とつとめることができるこの学修を存分に味わって通りたいと思います。細部まで目を通していただきありがとうございます。

人材育成部本部スタッフ 船越 陸

「おせち学生ひのきしん隊」開催報告



新春の親里で開かれた「お節会」に際し、4年ぶりに「おせち学生ひのきしん隊」を結成し、「喜びあふれる笑顔と明るい声のさわやかなおもてなし」を合言葉にひのきしんに励みました。今回のおせち学生ひのきしん隊には全国各地から165名（高校生62名、大学生103名）の学生が参加し、1月4日から7日まで第三十八母屋にて合宿生活を送りました。

「お節会」ではテント会場において、給仕や誘導のひのきしんをさせていただきました。寒い中ではありましたが、一人でも多くの方に喜んでいただけるよう、ひのきしん打ち合わせや反省会を行うなどして、精一杯のおもてなしを心がけ、学生たちはひのきしんを通して多くの喜びを分かち合うことができました。また、宿舍では、主に班別での時間を過ごし、ひのきしんの振り返りやゲームなどを通して、おぢばで出会った仲間たちと親睦を深めました。さらに、期間中には26名（初席5名、中席21名）の学生が別席を運ばせていただきました。

学生たちは感謝の心を胸にご恩報じの気持ちを持ってひのきしんに臨み、それぞれの持ち場での自主的な取り組みや人との交流を通して信仰の喜びを深く味わい、有意義な4日間を過ごしました。

○参加者の声

たくさんの方の帰参者の方に会えて、いろんな会話ができた。最初はいろんな不安の気持ちがあったが、やっぱりおぢばの人たちは優しい人ばかりで、思った以上にたくさんの方と仲良くなれて良かった。

（高校生 女子）

久しぶりのおせちひのきしんで、迎える側はたくさん楽しさがあると思った。大変なことも含め、ひのきしんの大切さを再確認できてよかった。また、ひのきしんを通して、お道の友達がたくさんできて良かった。

（大学生 女子）

大学生班班長をつとめて、班員のことを考えながらつとめた3日間は本当に楽しかった。「楽しむときは楽しむ、やるときはやる」を自分が全力で体現しつつ、班員の間にも積極的で本心にうれしかった。

（大学生 男子）